

## 第 10 屋外消火栓設備

### 1 屋外消火栓の設置位置

屋外消火栓の設置位置は、政令第19条第3項第1号及び第5号によるほか、次によること。

- (1) 屋外消火栓は、原則として、建築物の出入口付近に設けること。
- (2) 同一敷地内に複数棟がある場合及び政令第19条第2項により一の建築物とみなされた場合には、棟ごとに屋外消火栓を設けること。なお、政令第19条第3項第1号の規定による有効範囲内にある場合（消火栓ホースが建築物内に延長できる場合に限る。）には、この限りでない。

また、第2章第3消防用設備等の設置単位2（1）により、別棟となる場合で、当該渡り廊下が不燃材料の時は、政令第32条を適用し、屋外消火栓設備の設置を要しないものとする。

- (3) 政令第19条の規定により設置した場合において、当該建築物（政令第19条第4項の規定に該当する部分を除く。）の中央部等に未警戒部分が生じる場合は、当該未警戒部分に屋内消火栓（1号消火栓に限る。）を増設して防護すること。

### 2 加圧送水装置

#### (1) 種別

加圧送水装置は、省令第22条第10号によるほか、第5章第2屋内消火栓設備1（1）イ（（イ）を除く。）及び（2）イを準用すること。

#### (2) 設置場所

加圧送水装置の設置場所は、第5章第2屋内消火栓設備1（1）ア及び（2）アを準用すること。

#### (3) 全揚程等

加圧送水装置の全揚程は、省令第22条第10号イ、ロ及びハ（ロ）によるほか、配管の摩擦損失計算等は、第5章第2屋内消火栓設備8を準用すること。

なお、消防用ホースの摩擦損失水頭は、省令第12条第1項第7号チに基づく告示基準が示されるまでの間は第10－1表を参照すること。

第10－1表 ホースの摩擦損失水頭表

| ホースの呼称    | 50 | 65 |
|-----------|----|----|
| 摩擦損失水頭（m） | 20 | 6  |

（流量400 l/minの樹脂内張ホース：100m当り）

#### (4) ポンプの吐出量

ポンプを用いる加圧送水装置は、省令第22条第10号ハ（イ）の規定によるほか、次によること。

- ア 同一敷地内に複数棟ある場合には、ポンプを兼用又は併用することができる。なお、複数棟でポンプを兼用する場合は、第5章第2屋内消火栓設備1(1)ウ(ア)bを準用すること。
- イ 1(2)により同一敷地内の複数棟を一の建築物とみなし、ポンプを兼用又は併用する場合には、各棟に設けられた屋外消火栓の設置個数の合計が2を超える場合においても、ポンプの吐出量は800ℓ/min以上とすることができる。
- ウ 1(3)において、当該未警戒部分に屋内消火栓を増設できない場合は、第10-2表に定める面積に応じたポンプの吐出量とし、かつ、当該部分の直近の消火栓に必要なホースを増加しておくこと。

第10-2表 屋外消火栓ポンプ吐出量

| 未警戒となる部分の面積    | ポンプの吐出量    |
|----------------|------------|
| 500㎡未満         | 800ℓ/min   |
| 500㎡以上1,500㎡未満 | 1,200ℓ/min |

(5) 放水圧力が規定圧力を超えないための措置

省令第22条第1項第10号ニに規定する放水圧力が0.6 MPaを超えないための措置は、第2屋内消火栓設備1(3)を準用すること。

### 3 水源

(1) 水源水量

水源水量は、政令第19条第3項第3号によるほか、次によること。

- ア 他の消防用設備等と併用する場合にあっては、それぞれの規定水量を加算して得た量以上とすること。
- イ 1(2)により同一敷地内の複数棟を一の建築物とみなし、ポンプを兼用又は併用する場合には、各棟に設けられた屋外消火栓の設置個数の合計が2を超える場合においても、水源は14m<sup>3</sup>以上とすることができる。

(2) 水源の確保方法

第5章第2屋内消火栓設備2(3)を準用すること。

### 4 配管等

(1) 機器

第5章第2屋内消火栓設備3(1)を準用すること。

(2) 設置方法

ア 配管内の充水

(ア) 配管内の充水は、第5章第2屋内消火栓設備3(2)アを準用すること。

と。

なお、補助用高架水槽による場合は、補助用高架水槽から主管までの配管は呼び径50A以上とすること。

(イ) (ア) により設置する補助用高架水槽は、容量は、 $0.5\text{m}^3$ 以上とすること。

イ 立ち上がり管

主管のうち、立ち上がり管は、呼び径65A以上のものとする。

ウ 配管の吊り及び支持

配管の吊り及び支持は、第5章第2屋内消火栓設備3(2)ウを準用すること。

エ 屋外等の露出配管

屋外等の露出配管は、第5章第2屋内消火栓設備3(2)エを準用すること。

オ 建物導入部の配管

建物導入部の配管は、第5章第2屋内消火栓設備3(2)オを準用すること。

カ 埋設配管

埋設配管は、第5章第2屋内消火栓設備3(2)カを準用すること。

## 5 起動装置

省令第22条第10号ホによるほか、第5章第2屋内消火栓設備4を準用すること。

なお、第5章第2屋内消火栓設備4(2)アに示す起動用水圧開閉装置の設定圧力は、「屋外消火栓設備の場合： $H1 + 0.3\text{MPa}$ 」とする。

## 6 非常電源・配線等

第5章第2屋内消火栓設備5を準用すること。

## 7 屋外消火栓の表示等

省令第22条第3号及び第4号によるほか、次によること。

- (1) 消火栓箱に表示する「消火栓」の文字の大きさは、1字につき $20\text{cm}^2$ 以上とすること。
- (2) 消火栓の位置を明示する赤色の灯火を消火栓箱の上部又は消火栓箱の上端に設けること。
- (3) 赤色の灯火の有効面積は、直径60mm以上又はこれに相当する面積以上とすること。

- (4) (2) の灯火が加圧送水装置の始動を点滅により表示できるものは、省令第22条第3号の表示灯と兼ねることができる。

## 8 屋外消火栓箱の構造

第5章第2屋内消火栓設備7(1)ア(ア)を準用すること。ただし、扉の表面積は $0.8\text{m}^2$ 以上とすること。

## 9 屋外消火栓の構造

### (1) 型式

- ア 屋外消火栓は、地上式とすること。
- イ 放水口のホース接続口は、屋外消火栓箱に設けること。

### (2) 消火栓開閉弁

- ア 材質及び構造は、第5章第2屋内消火栓設備7(1)ア(イ)を準用すること。
- イ 放水口のホース接続口は、「消防用ホースに使用する差込式の結合金具の技術上の規格を定める省令」(平成4年自治省令第2号)に規定する呼称50又は65に適合する差し口とすること。

## 10 屋外消火栓箱に格納するホース、ノズル等

### (1) ホース

- ア ホースは9(2)の放水口のホース接続口に結合できる呼称50又は65の長さ20m以上のものを設置すること。
- イ 設置する本数は、屋外消火栓箱の防護範囲の歩行距離を考慮し、2本以上とすること。

### (2) ノズル等

- ノズル(スムースノズルに限る。)及び管そうは、原則として認定品を使用し、口径は19mm以上とすること。

## 11 屋外消火栓の包含範囲等

防火対象物の増築、改築、模様替え等による面積の増加、あるいは、棚等に類似するものが階と解された場合、次に掲げる基準により取り扱うことができるものとする。

- (1) 屋外消火栓の包含する範囲は、ホースを1本増設し、その長さの2分の1をもって足りる包含範囲内とすること。
- (2) 消火活動に際し、死角を生じないものであること。

- (3) 粉末消火器（10型） 1 本を増設すること。

## 12 総合操作盤

- (1) 総合操作盤  
総合操作盤は、省令第 22 条第 11 号の規定により設けること。◆
- (2) 設置場所  
総合操作盤は、第 5 章第 2 屋内消火栓設備 10 を準用すること。